

吉岡まちかど博物館（旧吉岡家土蔵）改修記録



平成23年10月

木下まち育て塾

目次

はじめに	P1
＜1＞ 建物概要	
1) 現吉岡家配置図	P2
2) 吉岡家土蔵の概要(改修前)	P3
3) 木下と吉岡家の歴史	P4
4) (改修前)現況図 立面図、平面図、断面図	P6
5) 現況(改修前)写真	P9
6) 現況調査の記録	P10
＜2＞ 改修計画	
1) これまでの改修の経緯	P16
2) 改修の目的	
3) 改修の方針	
4) 改修の内容	
5) 資金の調達	P18
6) 改修に関わる基準法等の規制について	
7) 改修の実施期間	
＜3＞ 改修工事の記録	
1) 木材の調達(伐採、製材)、外壁既存下見板の撤去	P19
2) 改修工事の内容	
3) 改修工事の記録	P20
＜4＞ 改修竣工図	P30
＜5＞ 竣工写真	P34

・本書は、木下まち育て塾が平成22年から23年にかけて行った「吉岡まちかど博物館」のリニューアル工事竣工を記念して作成した記録集です。

・本書の執筆・図面作成・編集は、今回の改修工事の設計・監理を行った新見 宏が担当、「木下河岸と吉岡家の歴史」は村越博茂が担当しました。

・「現吉岡家配置図」及び「吉岡家土蔵の概要(改修前)」は元東京電機大学教授の滋賀秀実氏の「吉岡家土蔵(吉岡まちかど博物館)その建物概要」(平成17年)を転載させていただきました。厚くお礼申し上げます。

・なお、本書とあわせ作成した吉岡まちかど博物館リニューアル記念企画展『川蒸気船銚港丸の誕生とその終焉―船主吉岡七郎の活躍―』の図録をご覧いただければ幸いです。

<はじめに>

『吉岡まちかど博物館』は明治24年(1891年)建築の吉岡家土蔵であり、今年で築120年となります。

しかしながら、近年まで利用されず、老朽化が著しいことから取り壊し寸前でしたが、関係者の努力により、一命をとりとめることになります。平成16年、東京電気大学(建築学科滋賀秀美教授指導)及び木下まち育て塾ほか、広範な市民の協働により、一階壁・床下や下屋部分が修復され、吉岡まちかど博物館として甦りました。毎月1回の定期開館を行い、市内外から多くの来館者が訪れ、木下の歴史を伝えてきました。

平成18年には、木下まち育て塾によって建物周辺の排水用暗渠の設置や二階床梁の一部補強がなされましたが、その後も木部の腐朽が進行し、外壁及び瓦の落下、更には倒壊による危険性も増大し、安全確保が困難な状況となったことから、このたびの全面的改修に至りました。

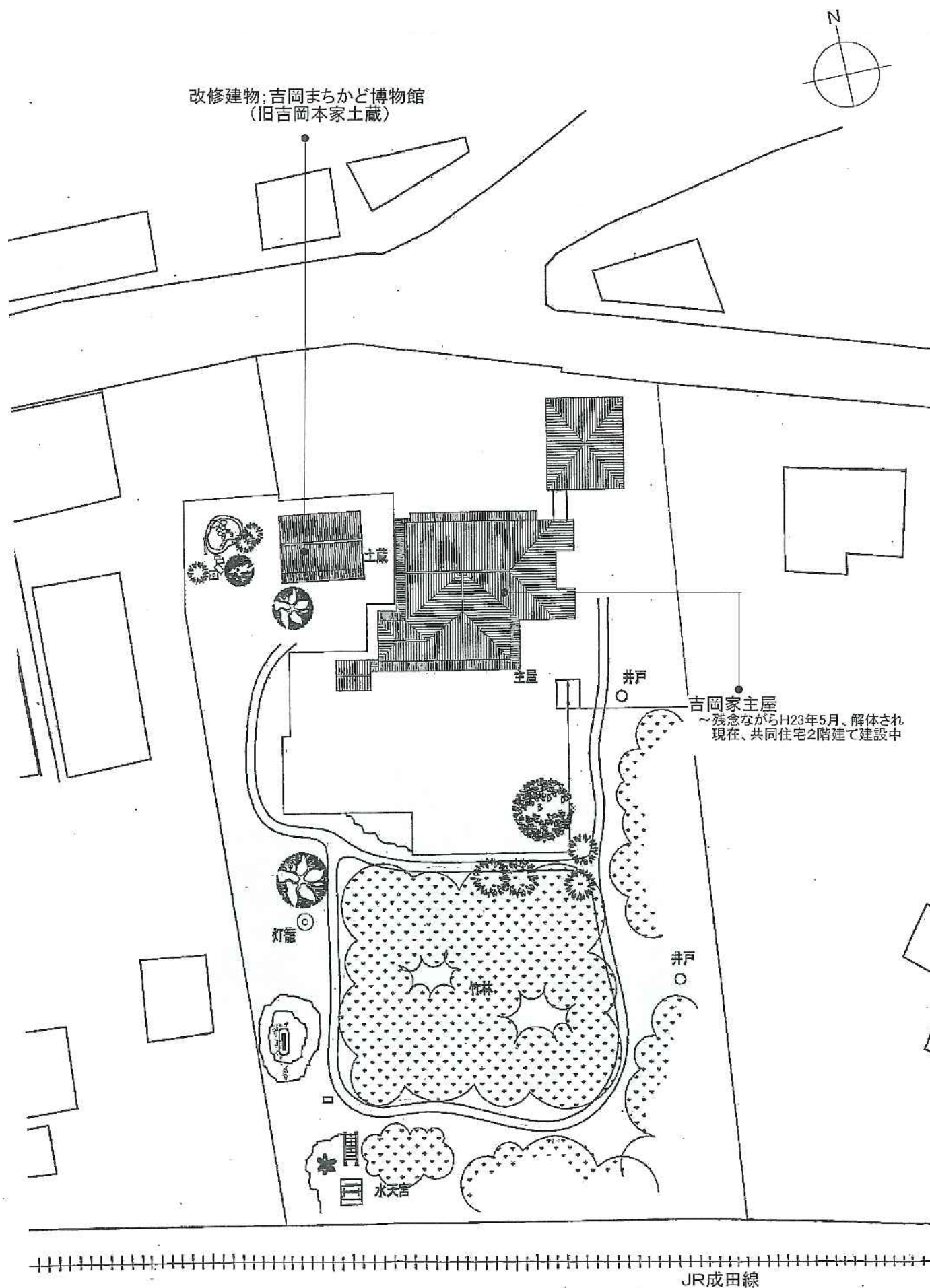
改修工事着工の一ヶ月前になって、東日本大震災に見舞われ、瓦の多くが大きくズレ落ち、土壁の一部も崩落、また煉瓦ブロックも割れが大きく口を開け倒壊寸前となりました。しかし、120年の歴史と関係する多くの人々の願いが通じたのか奇跡的に持ちこたえ、その後、無事着工し、8月に改修工事を終えることができました。

本内容は吉岡まちかど博物館となって3回目となる改修の計画と工事の記録です。

このたびの改修により、この吉岡まちかど博物館が木下河岸の歴史を後世に伝える歴史的建造物として永く親しまれ、市民活動の拠点として活用されることを期待します。



西側窓(平成16年)



(2005.7.17 東京電気大学建築学科滋賀秀美教授著「吉岡家土蔵(吉岡まちかど博物館)その建物概要と補修から転載させていただきました。)

1) 木下地区の土蔵について

印西市全域に現在残っている土蔵は20余棟あり、その大半は明治期以降に建設されたものである。そのうち、木下・大森の市街地に現存する土蔵は8棟、土蔵づくりの町屋(店蔵)2棟を含めると、合計10棟である。市街地内に残る土蔵は、農村部に残る他の土蔵より、規模が一回り大きく、農村部平均規模2間×2.5間に対し、市街地平均規模は2.5間×4間である。

2) 吉岡家土蔵の概要

棟札が定位置に現存し、東面する側、「明治二十四年四月、千葉縣下総國印旛郡木下町大字竹袋千四百八拾四番地、第二十五代當主吉岡吉太郎建之、棟梁三門米吉」と記されている。規模は4間×2.5間、建築面積10坪。

現在の吉岡家の敷地全体の中で、この土蔵は北西のはずれに位置している。北側の前面道路から見ると、主屋の右側にあり、主屋・土蔵とも道路から10メートルほど奥まった位置に建てられている。屋根は切り妻、棟は東西を向き、南側からの平入りで、入り口上部には庇が取り付けられている。

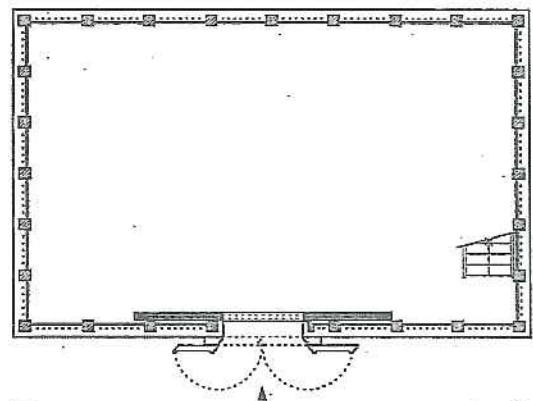
柱は猪行き方向に3尺間隔で9本、張間方向に2.5尺間隔で7本、周囲の柱は総計28本である。柱には2尺間隔の貫が通されている。小屋組みは中引きを二重に3本通した和小屋で、屋根は裏板の上に土居葺き・土葺き瓦で仕上げられたものである。2階の床梁は3尺間隔に架けられ、これに架けられた2.5尺間隔の根太に床板が敷かれている。出入り口は、外部から近い方から、土塗り漆喰仕上げの厚さ300mmの開き戸、漆喰壁仕上げの引き戸、金網・格子を組み合わせた木製引き戸+樗一枚板で作られた引き戸と三重に戸締まりできる構成であった。

3) 吉岡家土蔵改修の歴史

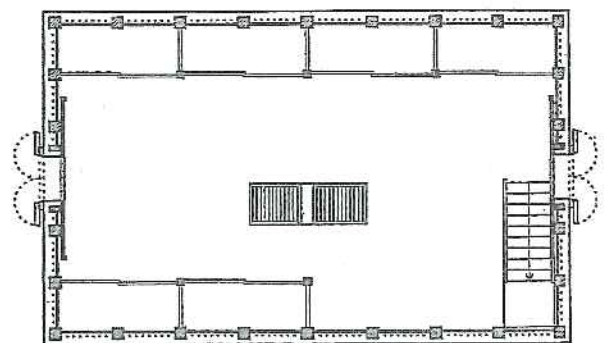
現在の吉岡家当主の重弘氏夫妻の知る限りでは、この50余年間(2004年以前)、土蔵の補修は行われていないとのことであり、一階の北側柱7本の添えられた補強用抱き柱などの補強・修理は関東大震災後、昭和初年に実施されたものと推測される。

2004年、2005年改修(東京電気大学、滋賀教授指導)

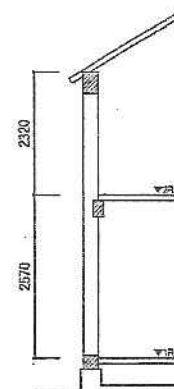
- ・柱土台の改修
- ・1階床廻りの補修
- ・庇(下屋)の改修
- ・入り口廻り改修
- ・内部階段の改装
- ・煉瓦階段の新設
- ・内壁落とし込み板
- ・押縁下見板製作、取り付け



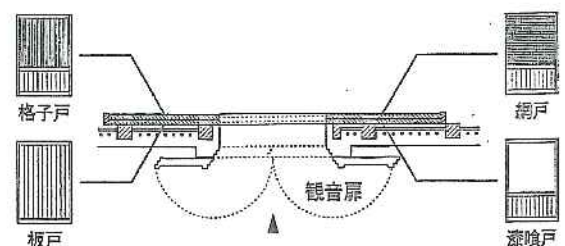
1階平面図



2階平面図



階高実測図



扉詳細図

1、木下河岸と吉岡家(江戸期)

利根川右岸に位置する木下(きおろし)は、江戸期には三社(鹿嶋・香取の両神宮及び息栖神社)巡りの乗船所として、明治期には木下と銚子、佐原、銚田の下利根川流域の諸都市、そして東京・銚子間を結ぶ吉岡家の川蒸気船銚港丸の船籍港として著名な河岸であった。

吉岡家は木下にあつて、名主、問屋職を務め、木下の政治・経済の中心にいた。幕末から明治期にかけ活躍した吉岡七郎への引継ぎ文書といえる2の『諸書附類並旧記書抜』を含め、吉岡家に伝わる古文書群は木下河岸を知る上で一級の史料として、印西市の文化財に指定されている。

江戸に注いでいた利根川が銚子へとその流れを変えたのは承応3年(1654)とされている。幕藩体制を支える米を安全・安価に輸送する舟運路整備は急務であった。以上を受け、文禄3年(1594)から第一次付替え工事が開始され、最終の第六次工事が終了したのは前述の承応3年である。

木下は、明暦年間(1656~1658)には河岸場としての性格を帯び始め、寛文年間(1661~72)には木下を有名にした三社詣の木下茶舟が営業を開始し、元禄年間(1688~1703)には幕府公認の城米津出し河岸となった。

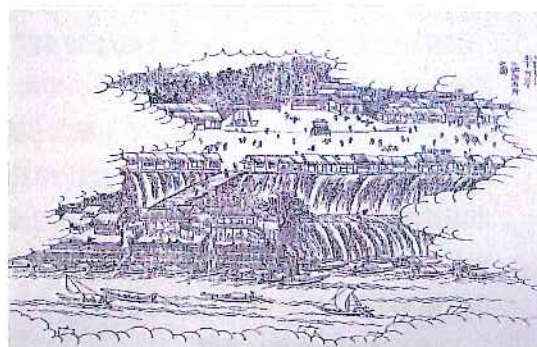
吉岡家が木下河岸にて問屋業に専念するのは享保年間(1716~1735)であり、以後、300年近く現在地に居を構えてきたのである。

一方、行徳・木下を起終点とする約36kmの木下街道は寛文8年(1631)には整備され、六ヶ宿組合が定められ成立している。木下街道は江戸と下利根川方面を結ぶ最短の連水陸路として多くの旅人がこれを利用した。又、木下街道は銚子方面から江戸への鮮魚輸送ルートとしても使われた。

木下は、三社詣の乗船所、木下街道の起終点、鮮魚輸送の荷上げ河岸として繁栄し、その中にあって、吉岡家は問屋、名主を務め、木下の政治・経済の中心にあつた。約1000坪に及ぶ屋敷敷地、100畳余りの屋敷は他の民家を遥かに凌ぐ広さを誇っていたのである。

参考文献

- ・山本忠良『利根川と木下河岸』(昭和63年)
- ・小池康久「江戸時代の木下河岸と吉岡問屋」『Ki oroshi(木下)の蒸気船銚港丸』(木下まち育て塾編 平成19年度企画展図録より)



1 「木下河岸 三社詣出舟之図」 中央奥に「問屋」が見える。赤松宗旦『利根川図志』安政5年(1858)



2 諸書附類並旧記書抜 安政6年(1859)頃。吉岡家に伝来する古い記録等をまとめたもの。



3 吉岡家の印半纏 井桁に屋号の問屋をあらわす「ト」及び木下の「木」をデザインしたもの



4 木下河岸問屋引札(チラシ) 問屋正面が描かれ、町人、武士等で賑わっている。なお、本チラシは後年、吉岡家縁の方により着色されたものである。

2、吉岡家と川蒸気船銚港丸(明治期)

明治期の木下は、江戸期に引き続き、東京と下利根川諸都市を結ぶ交通結節点として繁栄していた。明治10年代中期には旅館が壁無屋、三門屋、河内屋等14軒もあり、当時の税金史料から年間宿泊者数は約3万人と推定できる。

明治期の木下は、又、吉岡家の川蒸気船銚港丸と盛衰を共にしたといえる。明治10年代中期までの繁栄は、その後の交通の発達に伴う交通結節点の利根川上流への移動により、衰微の予兆が現れた。特に、明治15年(1882)12月、東京・小見川間を一日で結んだいろは丸の登場は交通結節点移動を象徴する事件であった。その後、更に利根運河開通、総武鉄道本所・銚子間開通、木下駅開業と加速の一途をたどり、利根川河川改修による河岸場の喪失により水運の町としての役割を終るのである。

明治期の吉岡家は、蒸気船事業と郵便局が主要なものであり、また、吉岡七郎が戸長を務める等、やはり木下の政治・経済の中心にいた家であった。

銚港丸船主三代は吉岡七郎(1837~1898)、その長男で二代目木下郵便局長を長く勤め、大正期には木下町長になった吉岡吉太郎(1859~1919)、三代目局長となった吉太郎長男の吉岡孝太郎(1879~1938)である。

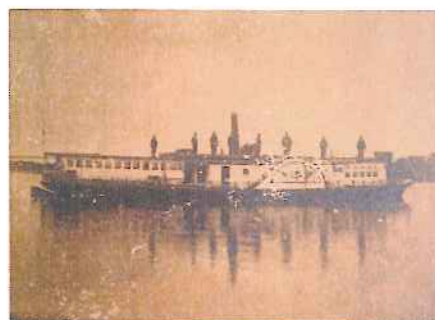
特に吉岡七郎は、川原代(現茨城県龍ヶ崎市)の木村藤左衛門長男として生まれ、その後、吉岡家へ養子に入り、幕末には問屋職、明治期には竹袋村戸長、初代木下郵便局長としても活躍をした。

明治10年夏、通運丸の木下・銚子間開業により木下も本格的な蒸気船時代を迎えた。吉岡七郎も地域の有力者との共同出資により12年8月、第一銚港丸を木下・銚子間に走らせ、13年、第二銚港丸、14年、第三銚港丸と矢継ぎ早に建造し、早くも最大の個人汽船業者となった。その後、内国通運、銚子汽船の二大汽船会社とも巧みに同盟関係を結び、個人業者淘汰の危機を乗り越え、28年2月には、ついに念願の東京・銚子間直航便に銚港丸を就航させた。

吉岡七郎は明治31年に亡くなった。その3年後には成田鉄道木下駅開業、翌35年には手塩にかけ、育成してきた銚港丸等4隻を吉岡家は手放した。吉岡家の庭内には吉太郎が父、七郎を顕彰して、37年に建てた、高さ4mを超える「吉岡翁碑」が今も聳え、吉岡家の行末を静かに見守っている。なお、前頁及び本頁掲載史料は11を除き、吉岡重弘氏蔵のものである。

参考文献

村越博茂「吉岡七郎と銚港丸」『Kioroshi(木下)の蒸気船銚港丸』(木下まち育て塾編 平成19年度企画展図録より)



5 木下・銚子間に活躍した初期の銚港丸



6 境・安食間に就航した利根丸 成田山参詣の人々を運んだ。明治27年就航



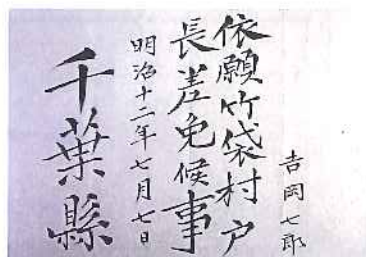
7 隅田川上の第四、第五銚港丸 東京・銚子間の直航便として活躍(明治30年代中期)



8 第四銚港丸の外輪カバー「CHOKOMARU」が見える。



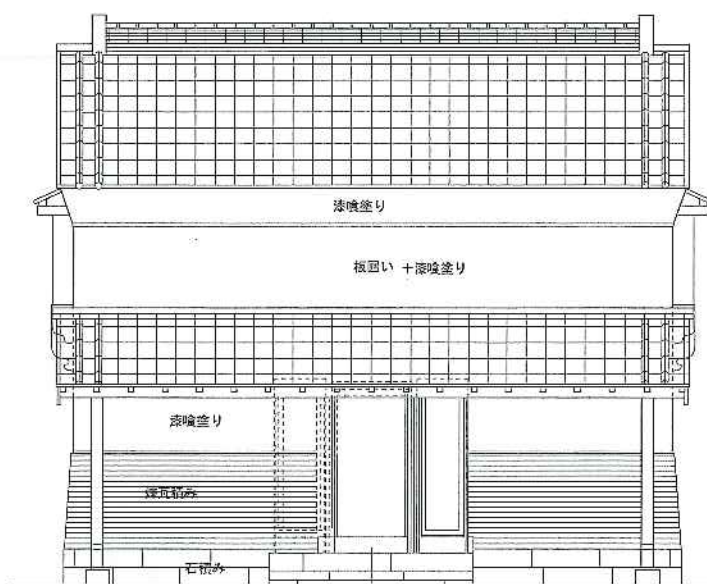
9 左: 郵便御用の辞令(明治5年)



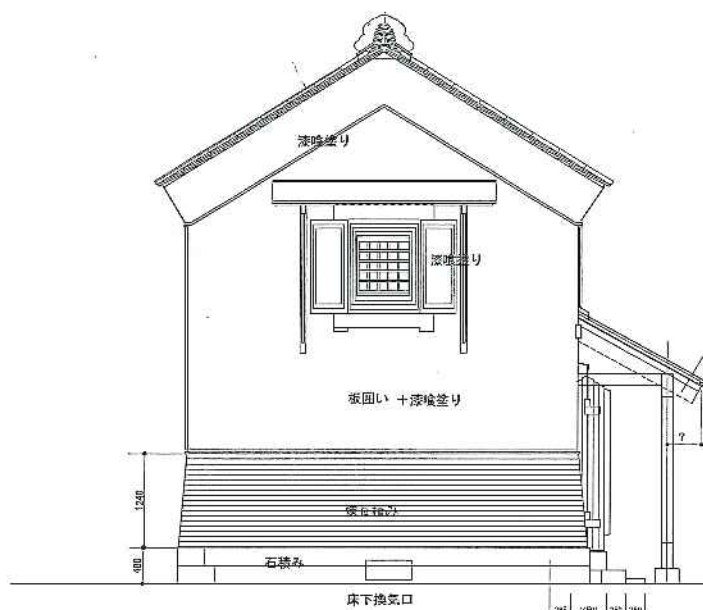
10 中: 竹袋村戸長辞職辞令(明治12年)



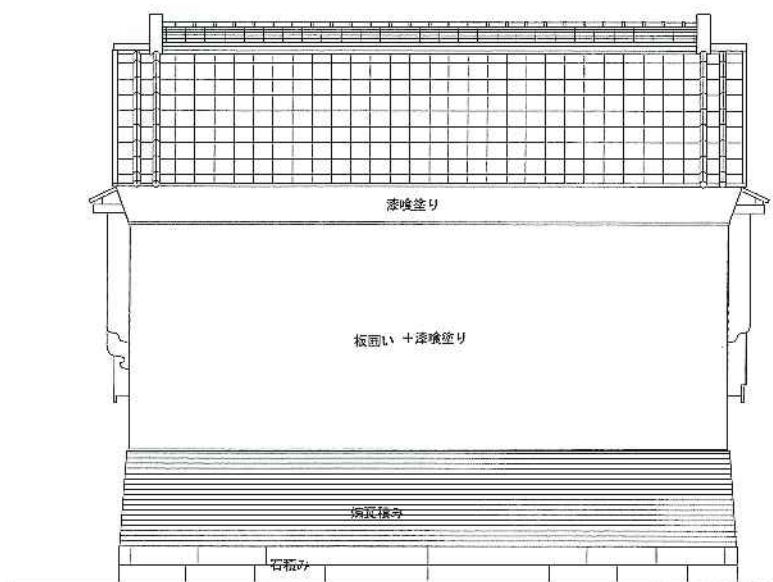
11 右: 第一銚港丸「利益金控え」(明治12年)



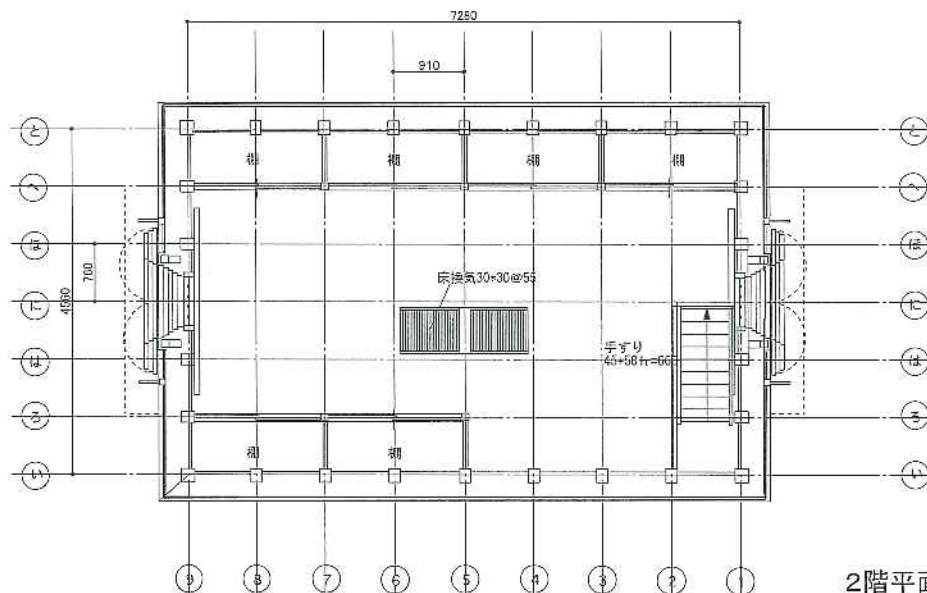
南立面図S=1/100



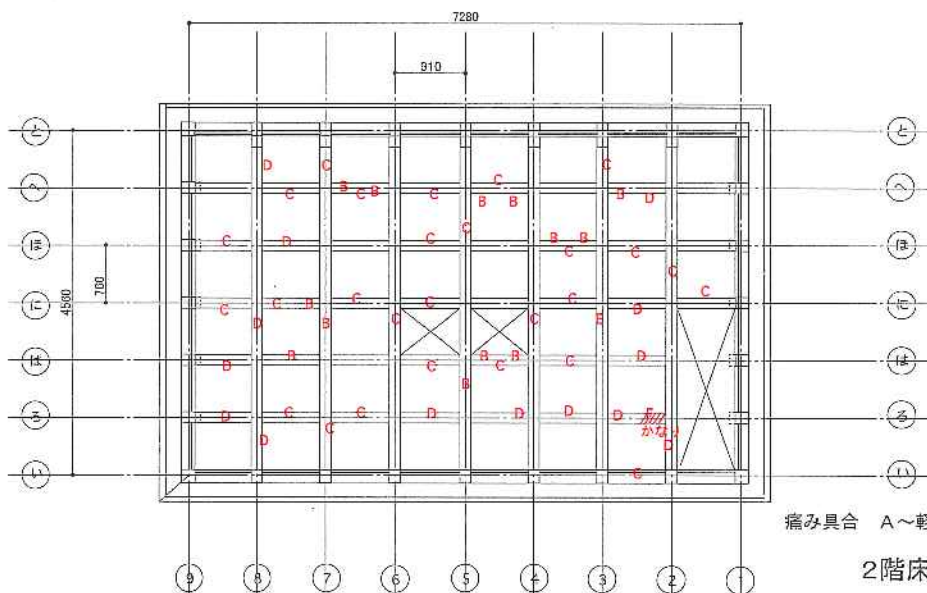
西立面図S=1/100



北立面図S=1/100

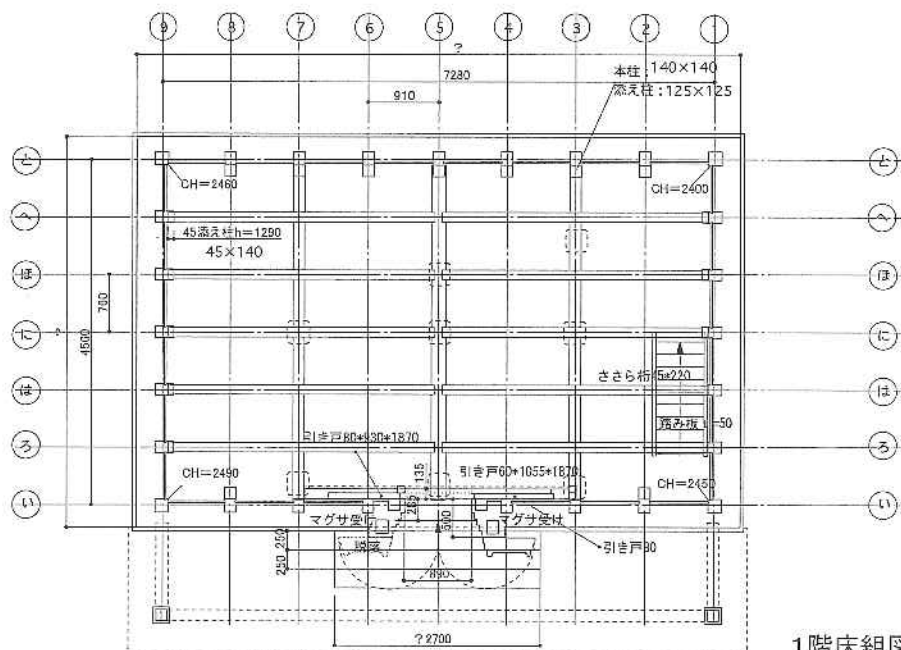


2階平面図 S=1/100

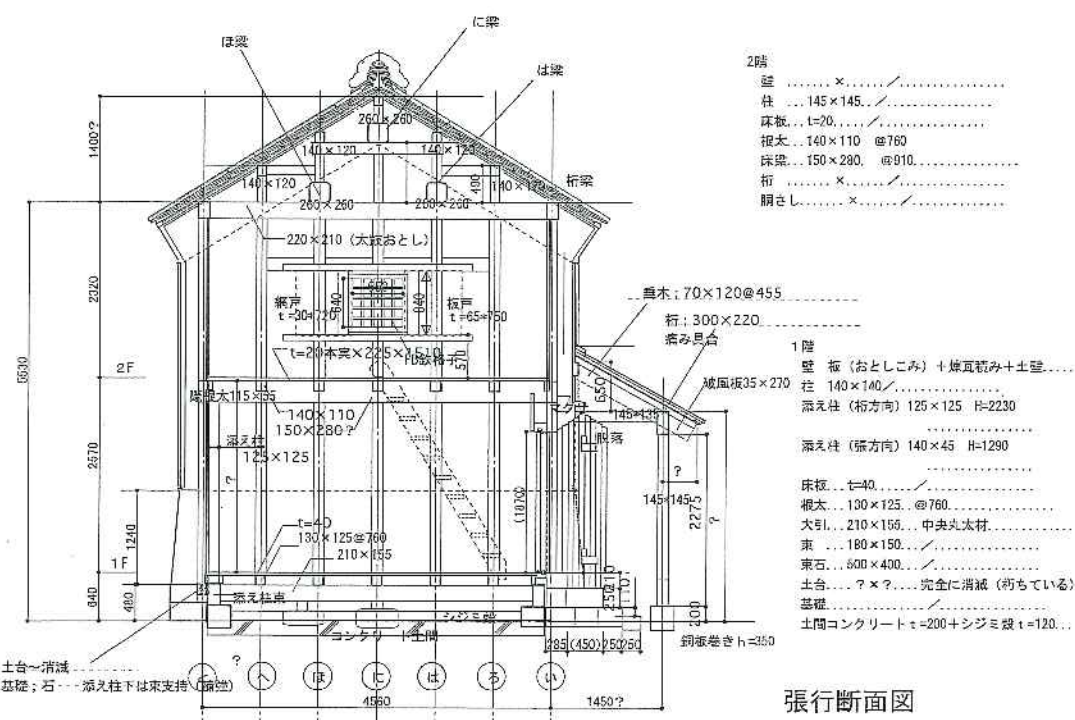
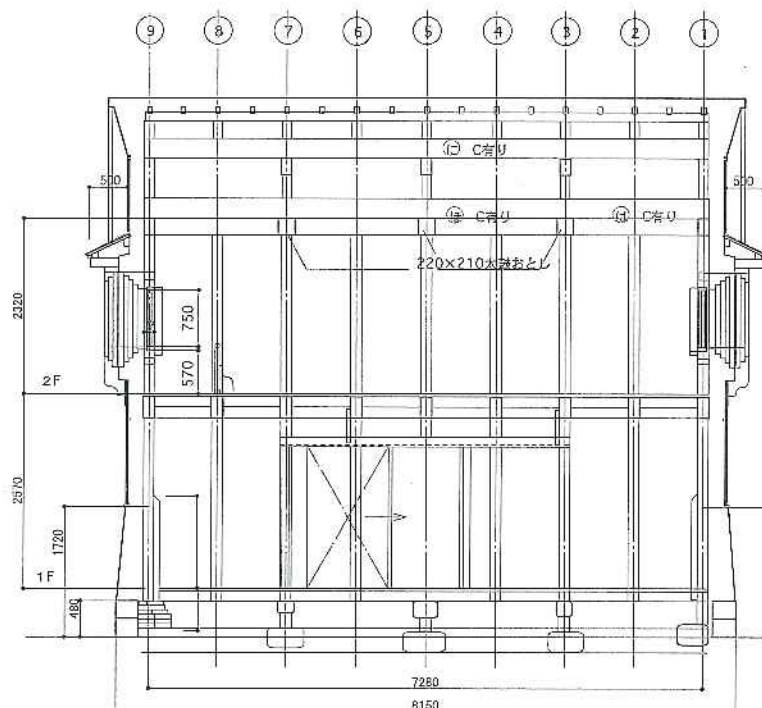
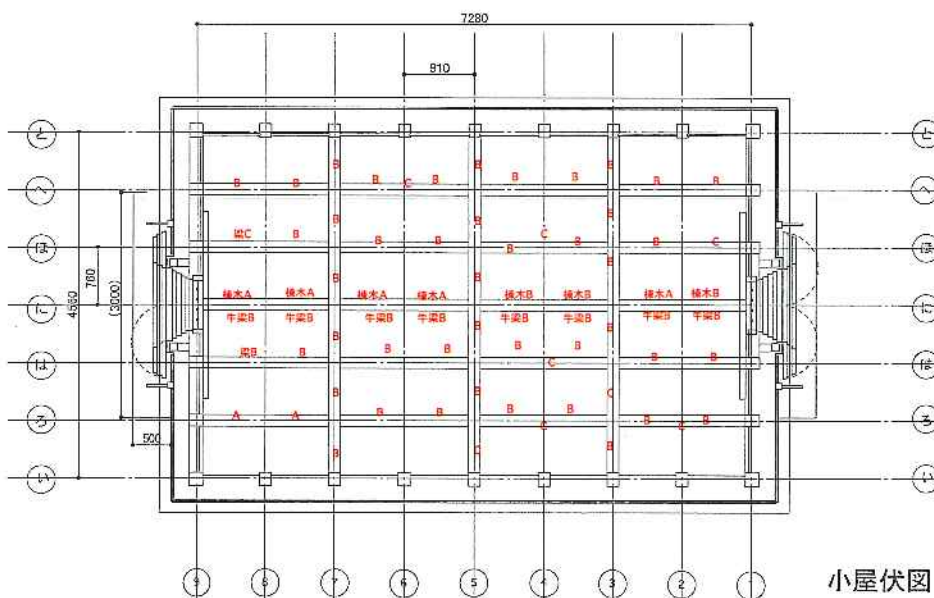


痛み具合 A～軽微 D～重傷

2階床伏図 S=1/100



1階床組図平面図 S=1/100



外壁漆喰壁を下見板により保護している。
H16年補修時にも、一部下見板を更新している。



北側外観



西側妻面

震災により崩れた鬼瓦



2011.3.28撮影

H16年補修時に新しく葺き替えられた
出入口底(下屋部分)



南側外観



外壁破風部分の漆喰仕上げがほとんど脱落している。

北東側外観

出入口左側の漆喰の大戸は吊り元の漆喰化粧枠共々朽ち落ちており、
下地の木部(まぐさと受け柱)露出している。



出入口廻り

平成21年7月～9月、街そだて塾 塾生5名(伊藤、村越、滋賀、遠藤、新見)により、現況の建物の傷み具合や破損状況の把握、各部寸法の実測及び建物の沈下・傾きなどの調査をおこなった。

現場調査票 <吉岡本家 蔵>建物外部

平成21年 7月 4日調査

記録: 新見

- 1、屋根 ～地上より目視で落下部分、破損、ずれを確認

・瓦	落下部分	無・有 ()	図示
	・ずれ	無・有 (有)	図示
	・破損部分	無・有 (有)	図示
・面土	→専門業者		
・野地板	→専門業者		
- 2、外壁漆喰 ～剥落部、下地の傷み具合、下見板下の状況の確認

・剥落部位	西面(半部剥落)	西窓面(剥落)	図示
	北面(剥落)		図示
	東面(下地腐蝕)	西窓面(剥落)	図示
	南面(剥落)	南窓面(剥落)	図示
・下地の状況	出入口廻り(腐蝕)		図示
- 3、下見板 ～傷み具合、腐食状況、脱落場所

・傷み具合	(北側は比較的良い)		
・留め具の状況	(良い)		
・脱落場所	(南面、西面)		図示
- 4、窓庇、袖 ～木部の腐朽、破損状況

・庇	(北側は腐朽)		図示
・袖	(北側は腐朽)		図示
・窓廻り	(西側は腐朽)		図示
- 5、出入口軒庇

・柱、桁、梁、破風板(破損、腐朽?)	軒、梁、破風板は腐朽		
・瓦	ずれ、落下(なし)		
・基礎	ずれ、沈下(なし)		
- 6、レンガ積み部 ～ひび割れの程度、下地の状況

・ひび割れ	西面(ひび割れ)		図示
剥落力所	北面(剥落)		図示
	東面(剥落)		図示
	南面(剥落)		図示
- 7、基礎石積み

・ずれ、割れ	(北側はずれ)		
・沈下等	(南側は沈下)		
- 8、出入口廻り

・開口部廻りの破損、脱落状況	(北側は腐朽)		
・両脇柱、マグサ	(北側は腐朽)		
構造体との状況	(北側は腐朽)		
・引き戸廻り	開閉具合 (北側は開閉)		
	金物の状態 (北側は金物)		



妻側窓庇トタン板は朽ち落ち、
下地野地板もほとんどが腐食している。

西妻部開口

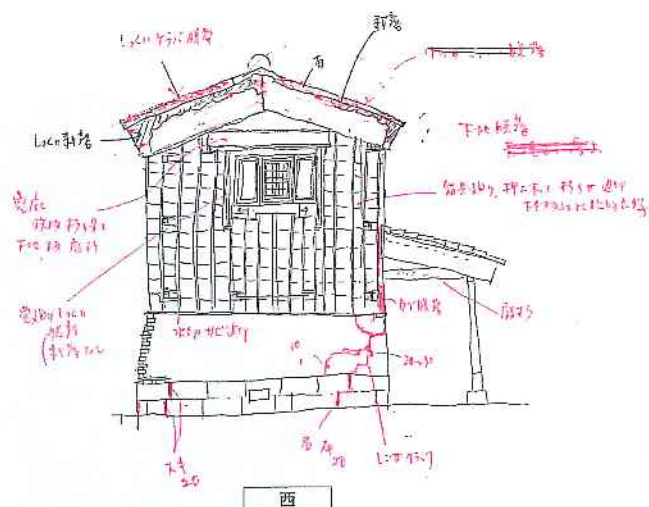
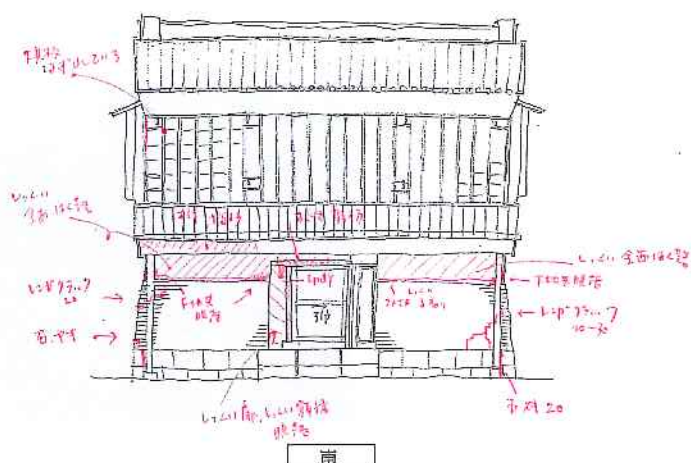


崩落寸前の出入り口脇の漆喰壁

調査票

現地調査票 <古岡本家蔵> 外部・立面-1

平成21年7月4日 調査
記録: 新井



*問題のあるカ所を記入



剥落した漆喰仕上げ壁漆
(2011.3.11東日本大地震以降)



揺れで崩れた漆喰の防火大戸
(2011.3.11東日本大地震以降)



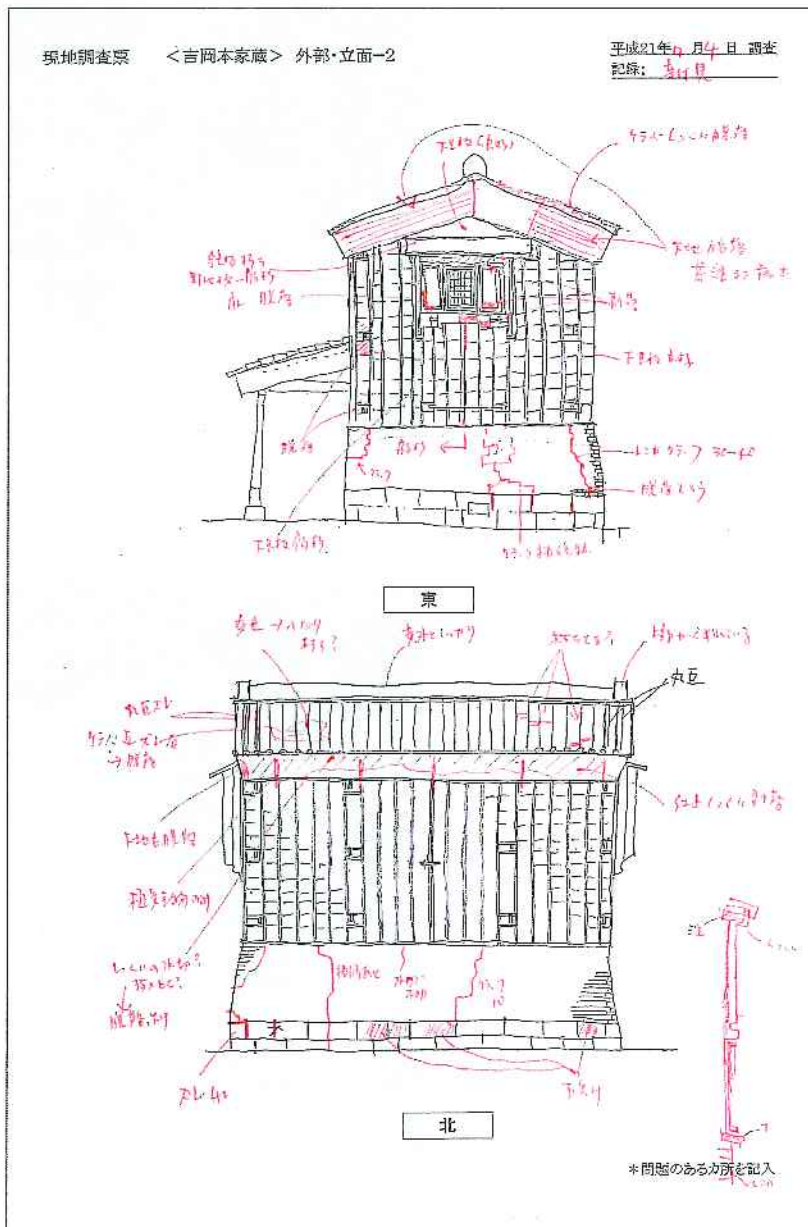
妻側破風部分の漆喰仕上げが3/4剥落し、
下地が見える。

東妻面



妻側窓庇トタン板は朽ち落ち、
下地野地板もほとんどが腐食している。

調査票



丸瓦の多くがズレ、破損している
北面西側



北面東側



2011.3.11東日本大地震以降、
大きくズレ・破損した鬼瓦、丸瓦

南面下屋壁取り合い



前回補修時に水切りが設けられなかったため
底下に雨が漏水している

調査票

現地調査票 <言岡本家蔵> 外部・立面計測-1

平成21年9月4日 調査
記録: 田中 寛

南

西

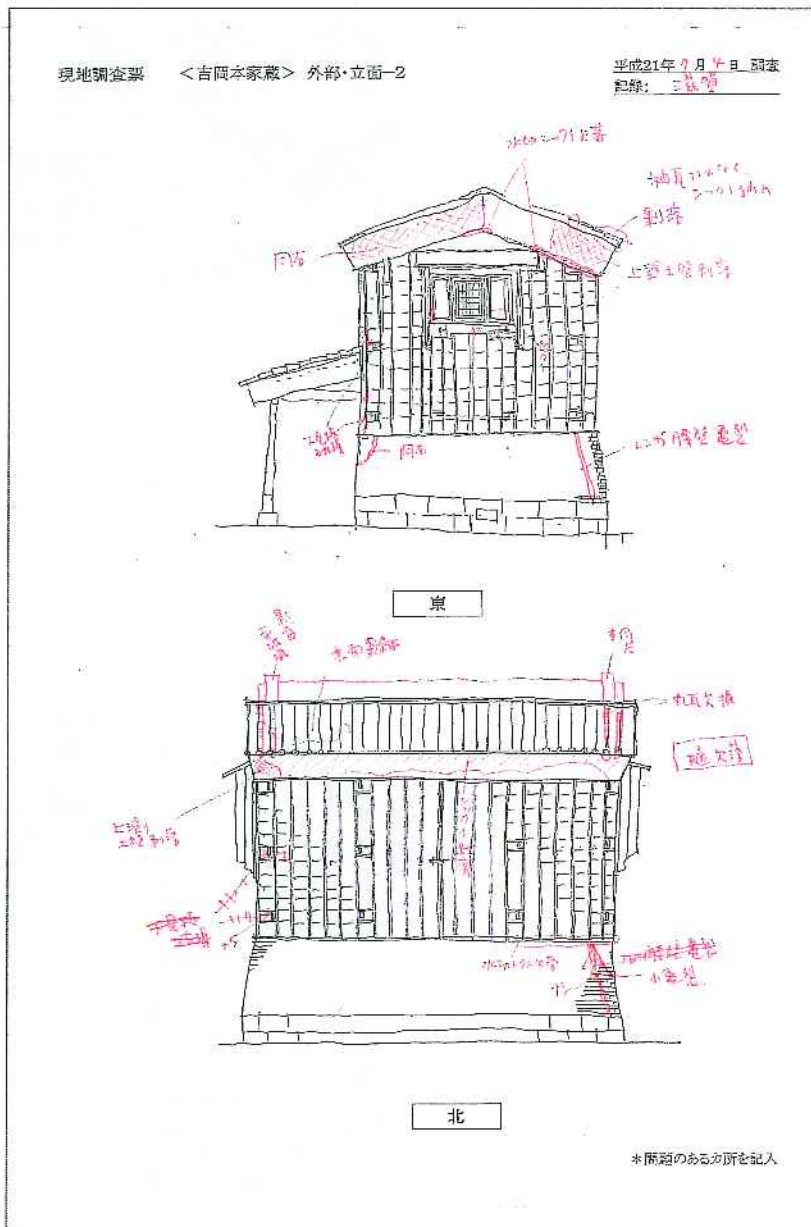


2011.3.11東日本大地震以降、
大きく進行したブロック積みのクラック





調査票



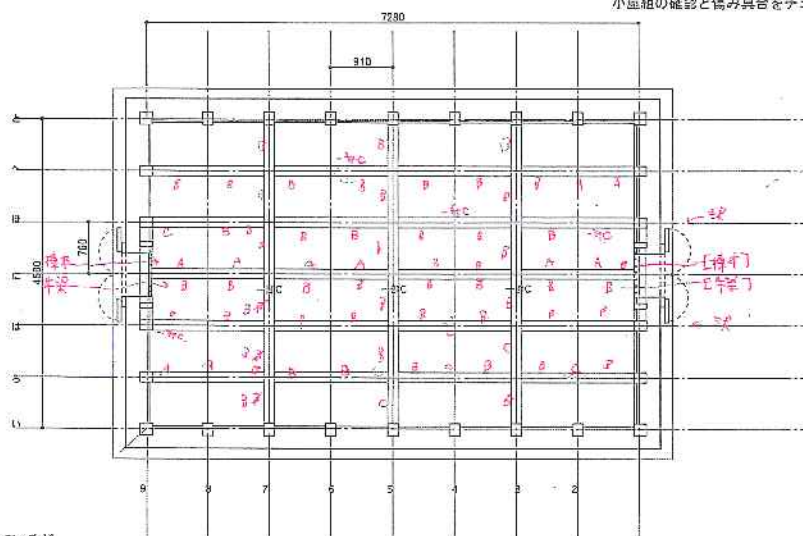
外壁漆喰壁を支える基礎上のブロックは珍しいフランス積み(=フランドル積み 明治初期頃まで)であるが、上部躯体の沈み込み・内部土台が腐蝕消滅しているためによって割れが入っており、その程度も地震等により進行している。



調査対象 吉岡水災 様>建物内部

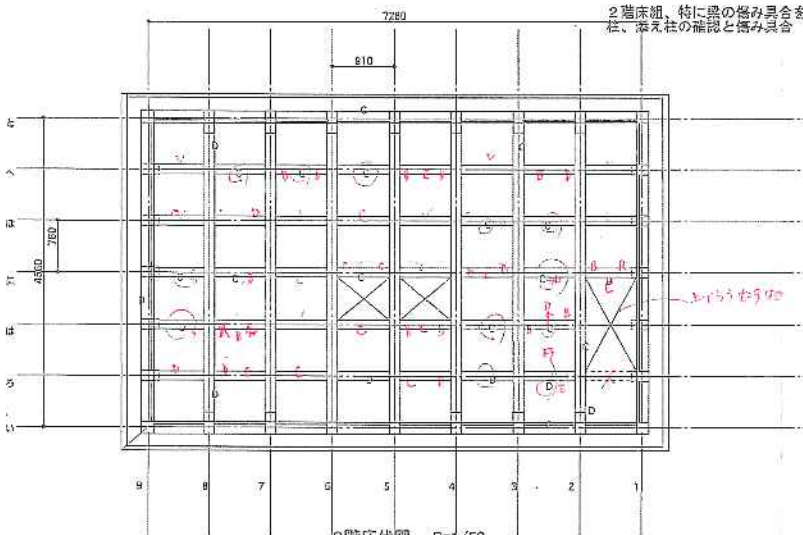
平成24年7月15日調査
記録: 水野、山本

小屋組の確認と傷み具合をチェック



・小屋組は比較的健全な状態となっているが、震災の影響が小梁がヨコにさけてひび割れが見受けられる。

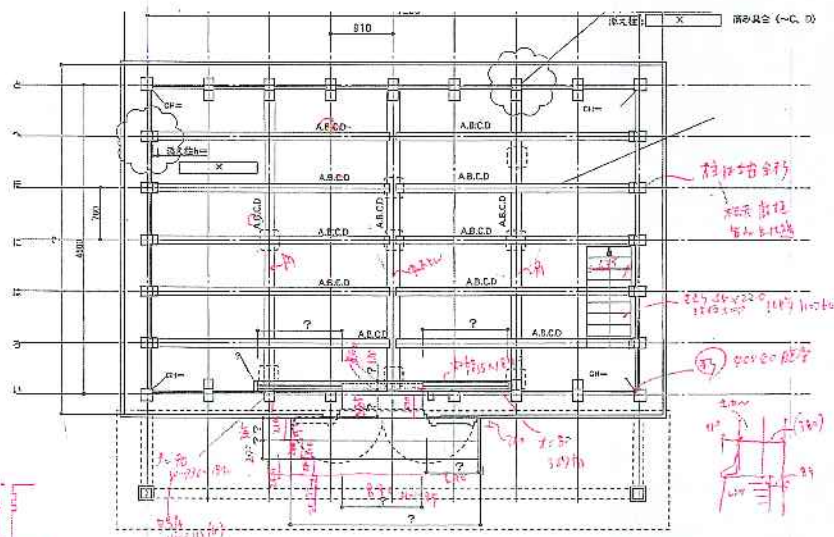
小屋伏図 S=1/50

2階床組、特に梁の傷み具合を確認
柱、梁の腐り具合を確認

・2階床梁材の多くが白蟻被害により腐朽が進んでおり、断力的に危険な状態となっている。

2階床伏図 S=1/50

グレイ (昭和14A02) ~ 20年3月電気大改修



・1階外壁柱の土台もほぼ全局が腐朽し消滅している。

1階床組図平面図 S=1/50

1階床組、特に基礎・土台と柱の固定を確認
出入口周りの状況 (改修の余地) を確認

<2>改修計画

1. これまでの改修の経緯

平成 16 年、17 年にわたり、東京電気大学(建築学科滋賀秀美教授指導)及び木下まち育て塾、市民有志により、一階壁・床下や下屋部分を修復。

平成 18 年 1 月、木下まち育て塾生により、白蟻被害の大きい1階梁、柱の一部の補強工事を実施、同8月には土蔵前庭の水はけの改善のため、土蔵周辺の透水管敷設工事を行う。

しかし、二階床梁の白蟻被害によるが腐朽が著しく、元々土台が消滅していたことも併せ、建物のゆがみ・傾きがさらに進行したため、二階への立ち入り人数の制限を行うなどして対応。

平成 21 年、企画展「追悼鈴木元臣短歌展」を契機に一階の内部を展示スペースとしてリニューアル。

(既往の改修内容) ・床下土間コンクリートの打設

- ・北側(と)の添え柱及び基礎の設置
- ・東西(1) (9) 通り添え柱及び煉瓦積み基礎の設置
- ・1階床材の敷替え
- ・1階壁はめ込み板の取り替え
- ・出入口屋根(下屋)の下地改修及び瓦葺き替え
- ・その他(出入口前の瓦敷き込み、建物周辺の排水管敷設工事)

2. 改修の目的

- ・老朽化の進む建物の安心・安全の確保
- ・木下河岸歴史博物館及び市民交流拠点としての長期的活用

3. 改修方針

歴史的建造物として、木下河岸の歴史を後世に伝える建物として、保存活用を図るべく、外観の景観維持を図り、かつ建物の安全性・延命化を考慮し、建物強度の確保により、今後の活用に耐えるものとする。

4. 改修内容

- (1) 屋根の補修 (一部葺き直し、破損瓦の取り替え、鬼瓦の修復等)
- (2) 外壁の塗り替え (崩落部分は下地より補強)

・改修方針 ～腐朽、崩落を防ぎ、本来の蔵の姿をとどめながら、安全性の強化をはかる。

現状

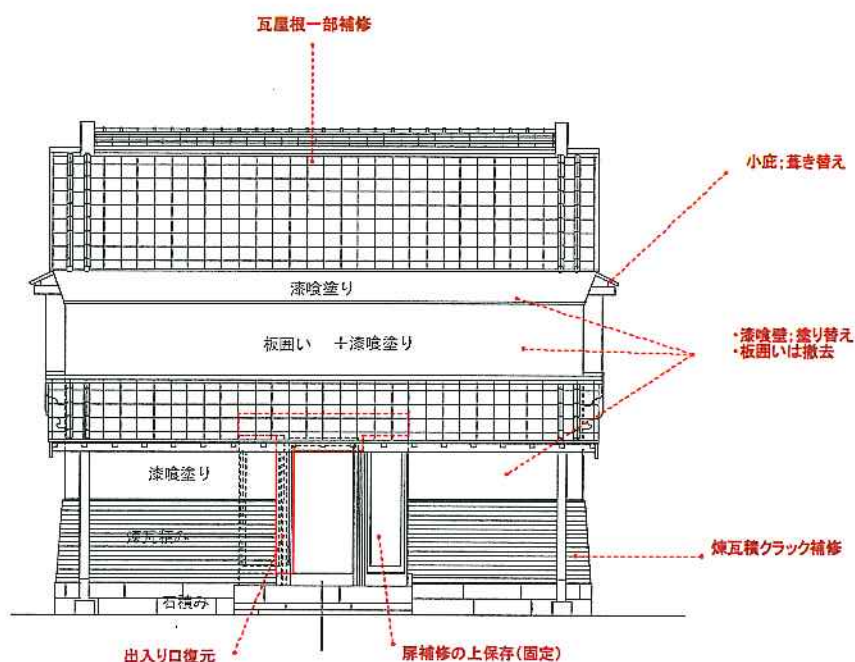


- ・漆喰壁の剥落
- ・窓庇腐朽脱落

現状



- ・漆喰壁の剥落
- ・外壁煉瓦積み目のクラック



吉岡蔵改修計画<外部>

- (3) 2階床梁の全面補強及び一部根太の取り替え
- (4) 1階全周の基礎・土台と補強柱の設置
- (5) 出入口廻り腐朽部分の撤去とまぐさ、受け材の取り替え
- (6) 出入口建具の復旧（吊り引き戸化、旧板戸の手直し再利用）
- (7) 防腐防蟻処理と床下換気扇の設置

・方針 ～構造材の取り替えは施工中に崩壊の危険があるため、**土台＋柱＋2階床梁を追加補強する。**

現状

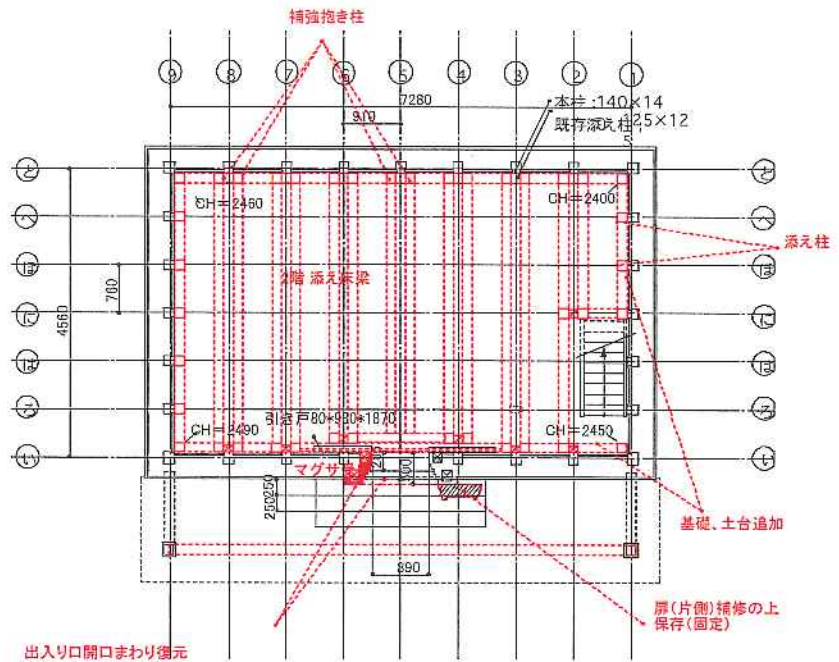


2階床梁、根太～白蟻被害により腐朽

現状

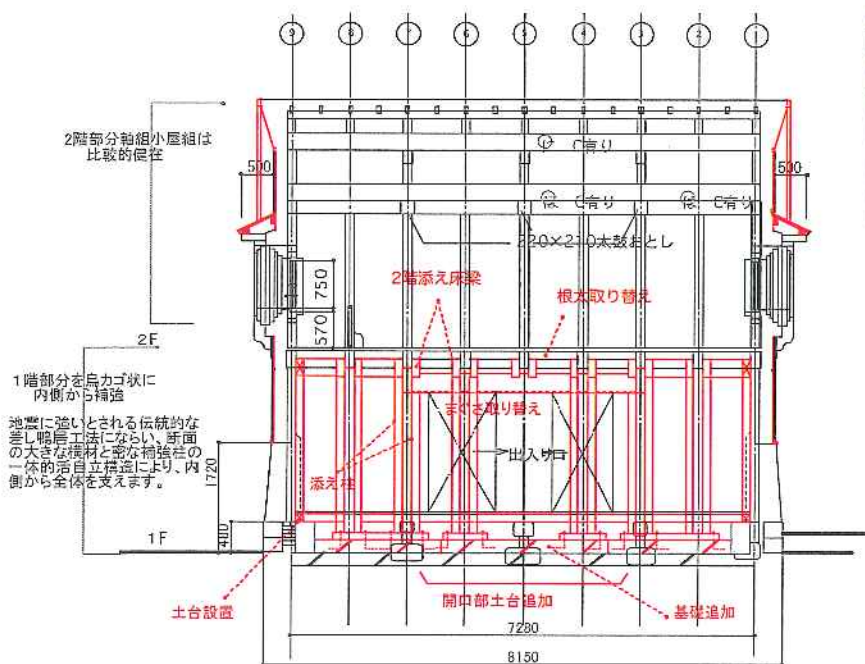


- ・入り口廻り漆喰壁の剥落
- ・開口まぐさ腐朽
- ・片側防火扉が脱落



吉岡蔵改修計画<内部平面>

・構造安全性の考え ～既存の柱、梁に手を加えず、
新たに追加する土台・基礎・柱・梁の一体化により、1階部分を内側から鳥かご状に
支えることで建物強度～安全性(軸力と耐震性)の強化を図る。



吉岡蔵改修計画<内部断面>

現状



窓底はトタン、野地とも腐朽

現状



- ・土台が消滅
- ・応急処置の添え柱

5. 資金の調達

「公益信託印西市まちづくりファンドー市民がつくるまちおこし整備コース」を利用し、500万円の助成金を得て、全額を改修費用に充てる。

6. 改修に関わる基準法等の規制について

□印西市ヒアリングの記録

日時；平成22年8月19日AM9:00

市側対応 建築課

相談者；新見

- ・相談内容；建築基準法への対応の必要性の有無について

増築、改築、移転等にあらず、大規模な修繕、模様替えにもあたらないと考えているがよろしいか？

- ・回答（見解）；・改修内容が主要構造部の一種以上において過半の修繕（大規模な修繕）にあたらないのであれば確認を要しない。

・改修以前と用途が変わらず蔵（倉庫）で利用するのであれば、大規模な模様替えにあたらないので確認を要しない。

（判断の要点）・従前の構造材を取り替えるのではないことから、補強材が追加であること（造作材あるいは追加の間仕切りの類とも考えられれば）。

・追加の2階床梁、1階添え柱も主たる構造材とも言えるがその場合でも全体の過半を超えてない。

・開口部についても改修で形状仕様がかわらない。

・屋根は葺き替えでなく、一部補修であること。

□当該敷地の利用制限の有無

- ・特に制限なし（用途地域は第一種住居地域で用途規制範囲内）

□地方自治体への届け等の必要性の有無

- ・特になし（市回答）

□文化財保護法上の規制の有無

- ・該当しない

□その他法令への対応の有無

- ・事前及び工事に関して、特に届け出不要（市回答）

7. 改修の実施期間

・平成21年7月～9月	現況調査、現況把握
・平成21年10月～	改修案作成
・平成22年4月～	ファンド申し込み～審査
・平成22年5月～	改修実施図作成
・平成22年12月	ファンド～助成決定
・平成22年12月	業者選定契約
・平成23年1月	木材調達（伐採、製材）
・平成23年5月	改修工事着工
・平成23年8月	改修工事完了

1) ・木材の調達(伐採、製材)

作業;木下まち育て塾生(平成23年1月)

木材寄贈;吉岡和明氏(吉岡家分家)

・外壁既存下見板の撤去

作業;木下まち育て塾生(平成23年4月)

2) 改修工事

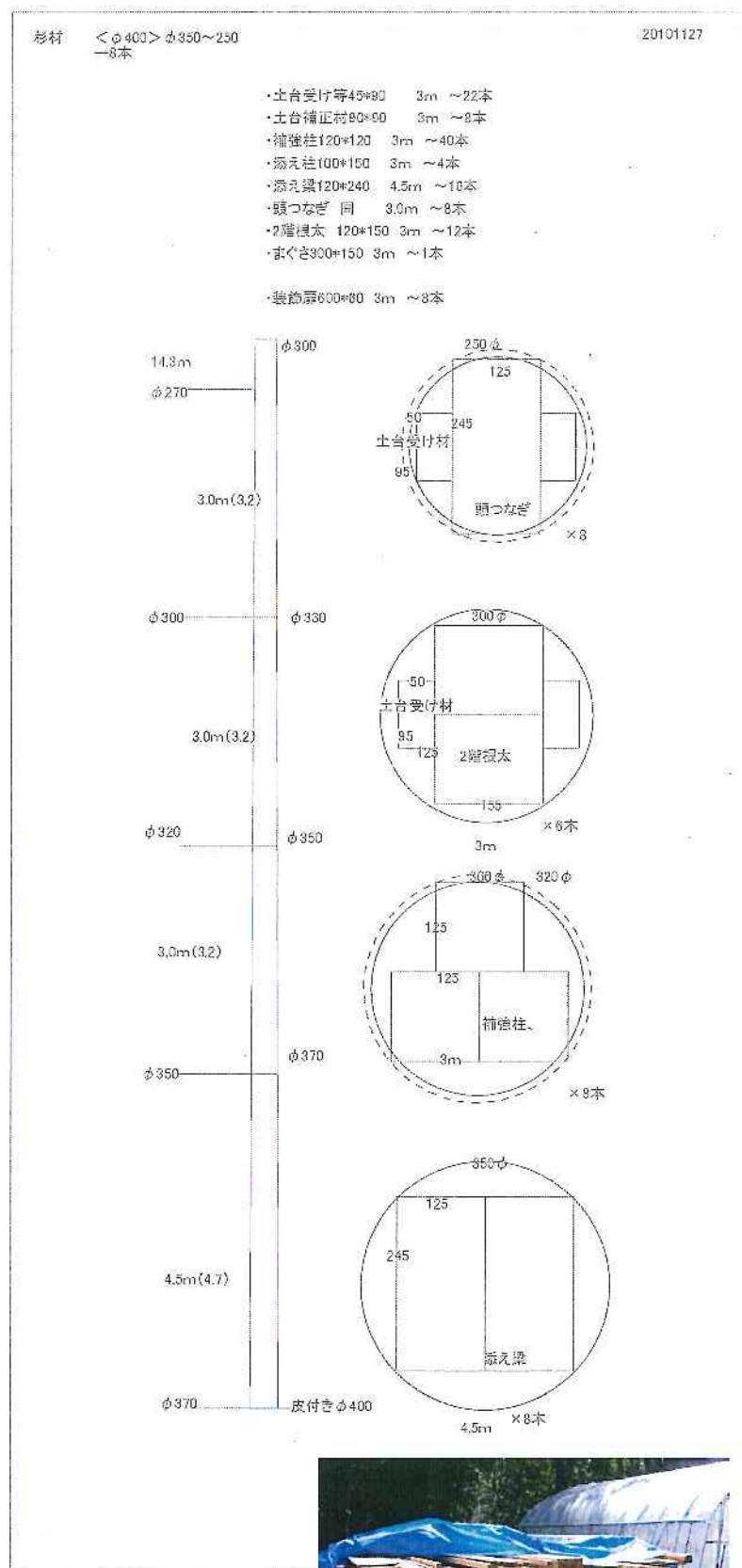
施工業者;樋口建設株式会社

工事期間;平成23年5月～8月

- ・足場の設置(4月)
- ・屋根の補修
- ・外壁の改修
- ・板金工事
- ・煉瓦積み補修
- ・窓庇改修
- ・開口部廻り漆喰塗り補修
- ・内部コンクリート基礎設置工事
- ・内部軸組み補強
- ・内部2階床梁補強
- ・出入口建具改修
- ・その他工事(防腐防蟻処理、床下換気扇設置他)



工程表



製材後の乾燥仮置き





足場組



下見板撤去作業



瓦のずれ落ちの手直し



鬼瓦のモルタル補修



のし丸瓦の取り替え



のし丸瓦の補修



大工作業場



支給材(梁)の加工



下屋部の屋根～壁取り合い部分に
水切り用下地取り付け



既存トタン及び野地板の撤去



野地板の取り替え(サワラ材)



防水紙、ガルバ鋼板平葺き



漆喰の(下見板)見切り材
～芯に竹が使われていた



見切り材の取り替え～ガルバ鋼板加工



破風部分見切り材(前頁)の下地材取り付け



煉瓦積み部分上部水切り下地の取りかえ



床下換気扇の
コントロールボックス



無収縮モルタルの充填



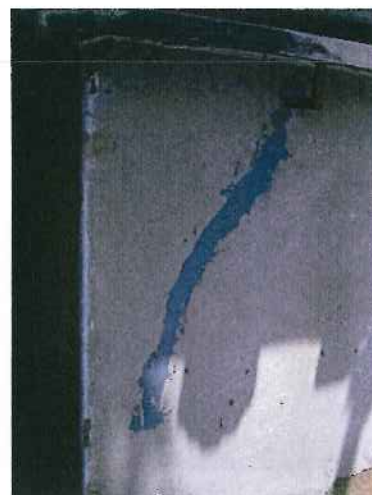
下部: 床下換気扇とコントロールボックスを鋼板材で保護



煉瓦積みの割れ部分に無収縮モルタルの充填



荒木田土下地の上にプライマーを塗布
(中塗り下地との接着性)



漆喰仕上げ材撤去後亀裂部分に
シーリング充填



荒木田土に塗布するプライマー



荒木田土の再利用



漆喰下地の崩落部分は再利用の荒木田土により
最下層下地の塗り替えを行った。



軽量骨材を
モルタルに混ぜ攪拌
中塗り材に使用



荒木田土の上に
ラス入り中塗りを施す。



漆喰壁の崩落部土壁を撤去し、
木下地をつくる。



発泡材入り中塗りの上に
さらに下地モルタルを塗り平滑に仕上げる



モルタル下地用パネルを張る



寒冷紗(割れ止め)入りのモルタル下地をつくる



この上よりアクリル樹脂吹付仕上げを施工



まぐさ受け柱の取り替え、
開口枠材の取り付け



ラス、防水紙張り



モルタルによる下地修復(のうえで漆喰による仕上げ)



改修前の窓の防火扉
漆喰がはげ落ち、
下地の土が露出している。



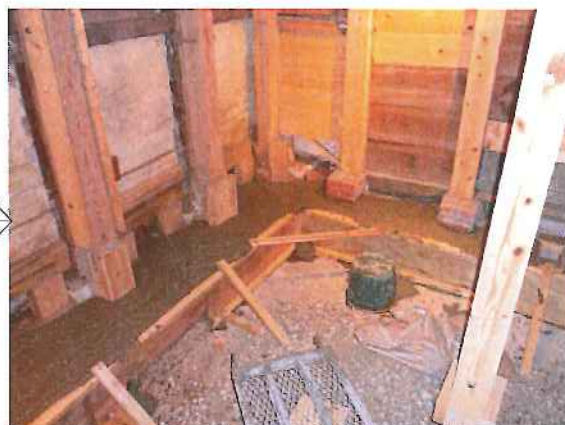
モルタルにより下地修復



漆喰による仕上げ



補強柱用基礎の配筋(D10@200程度)



コンクリート打設



アンカーボルト(補強柱脇)



大引き敷き込み



注入土台(CB)敷き込み、金物止め(ほぞ差し不可)



補強梁と一体に補強柱の建て込み



補強柱は補強梁取り付け後に建て込み



補強柱ほぞ指しできないため金物接合



補強梁はボルト締めにより既存梁及び柱に取り付け



出入り口上部まぐさ



2階の一部腐朽した根太は取り替え



2階床の補強梁(階段取り合い部用)
既存梁抱き込み用のボルト孔、
根太落とし込み用のかき取り加工



補強柱間に壁板のはめ込み

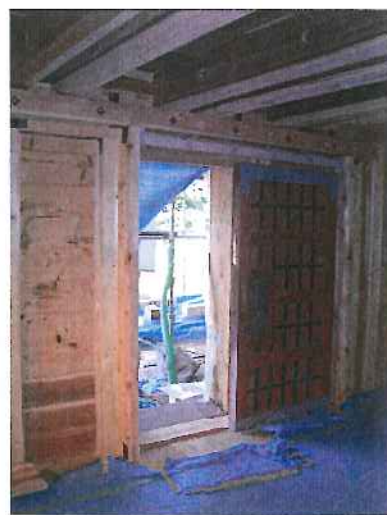


階段廻り補強柱と補強張り



・既存の3枚の扉のうち板戸を手直し、再利用する。

上下框部が腐朽していたため
鉄板補強し、吊り引き戸に改めた。



板戸内観 吊り引き戸に改良



吊り引き戸のガイド

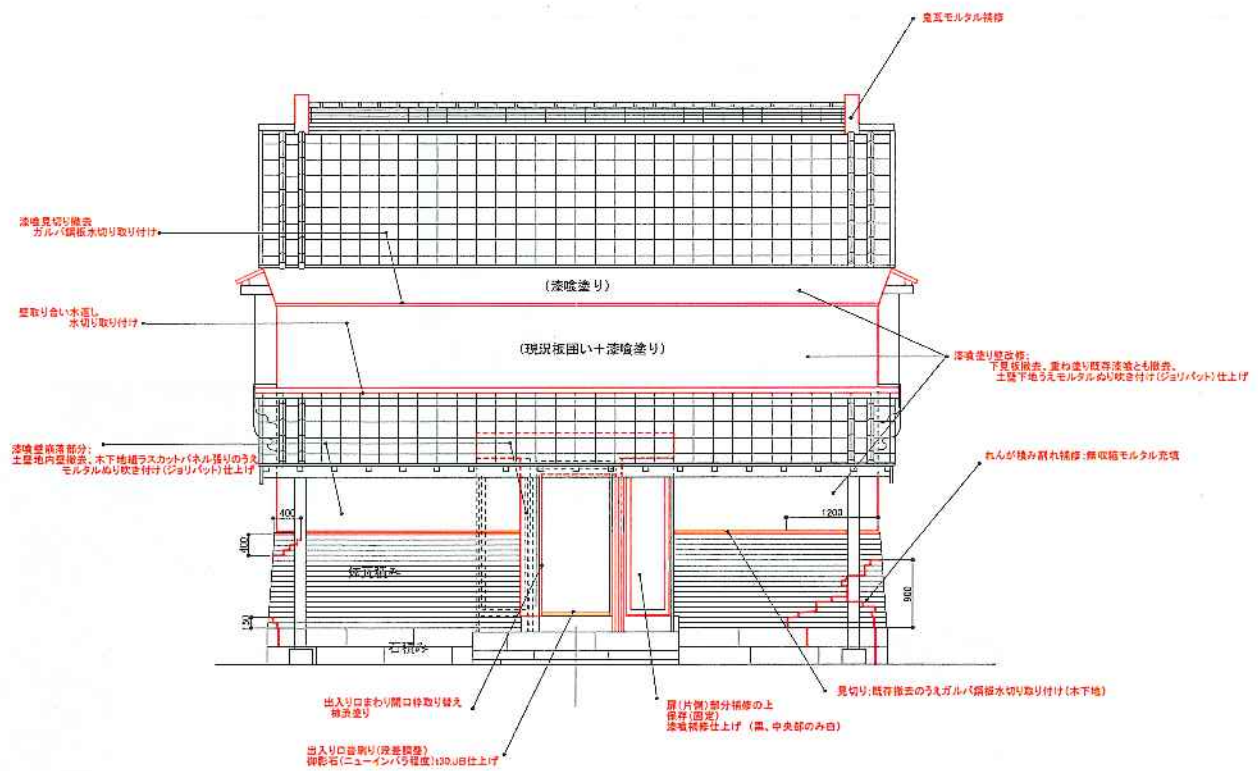


板戸外観 シリンダー錠取り付け

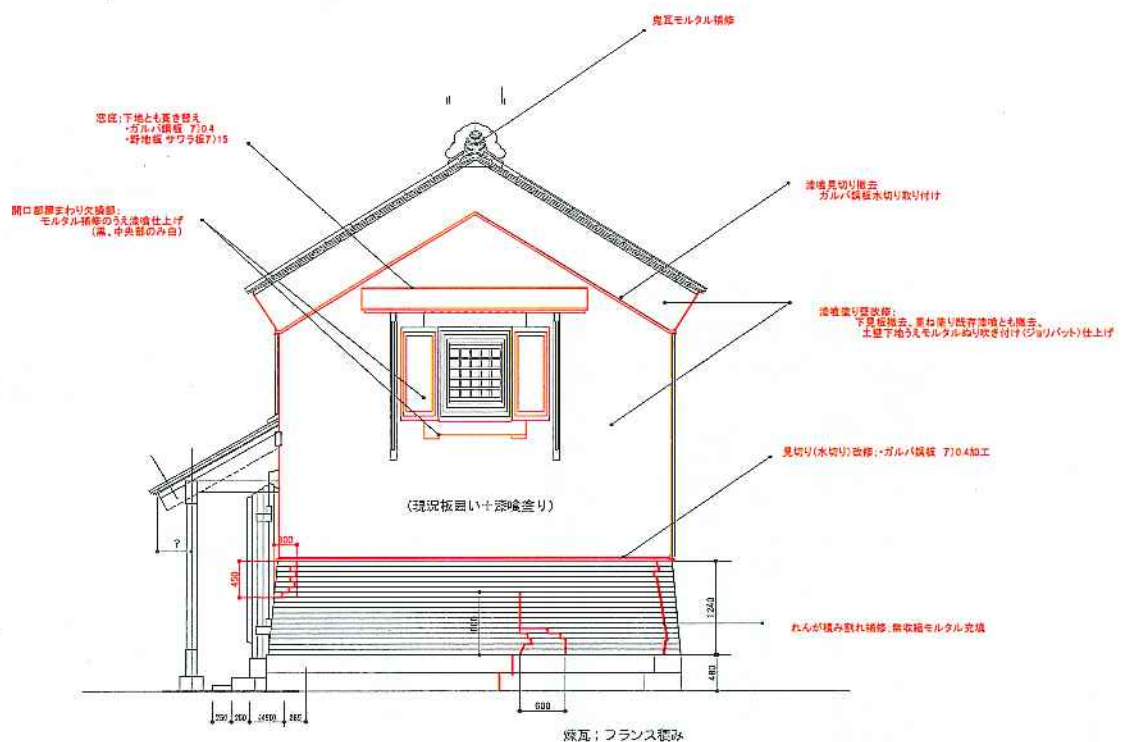


出入り口沓刷り石が転んでいるため
この上に 御影石敷込み

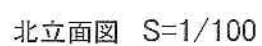
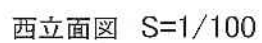
<4> 改修竣工図

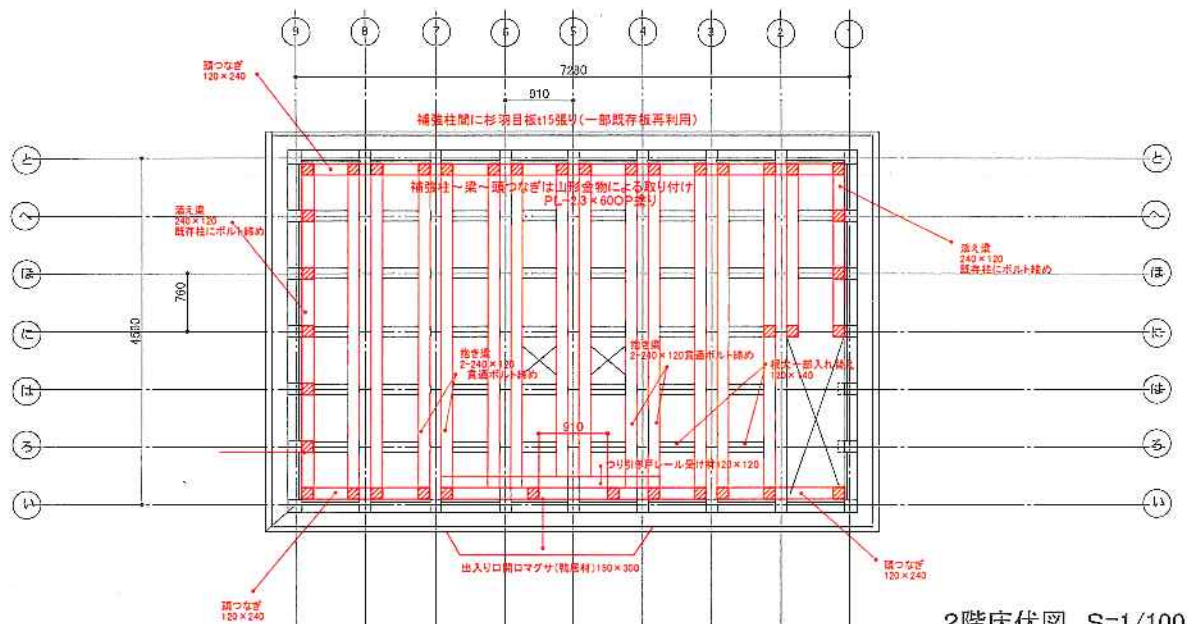


南立面図 S=1/100

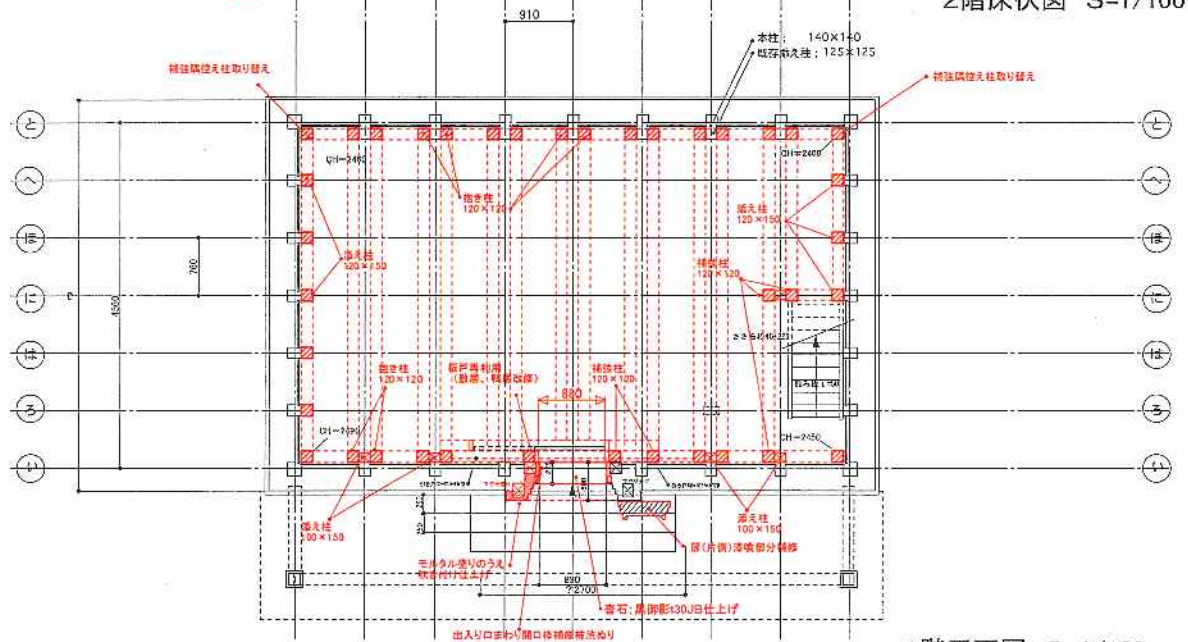


東立面図 S=1/100

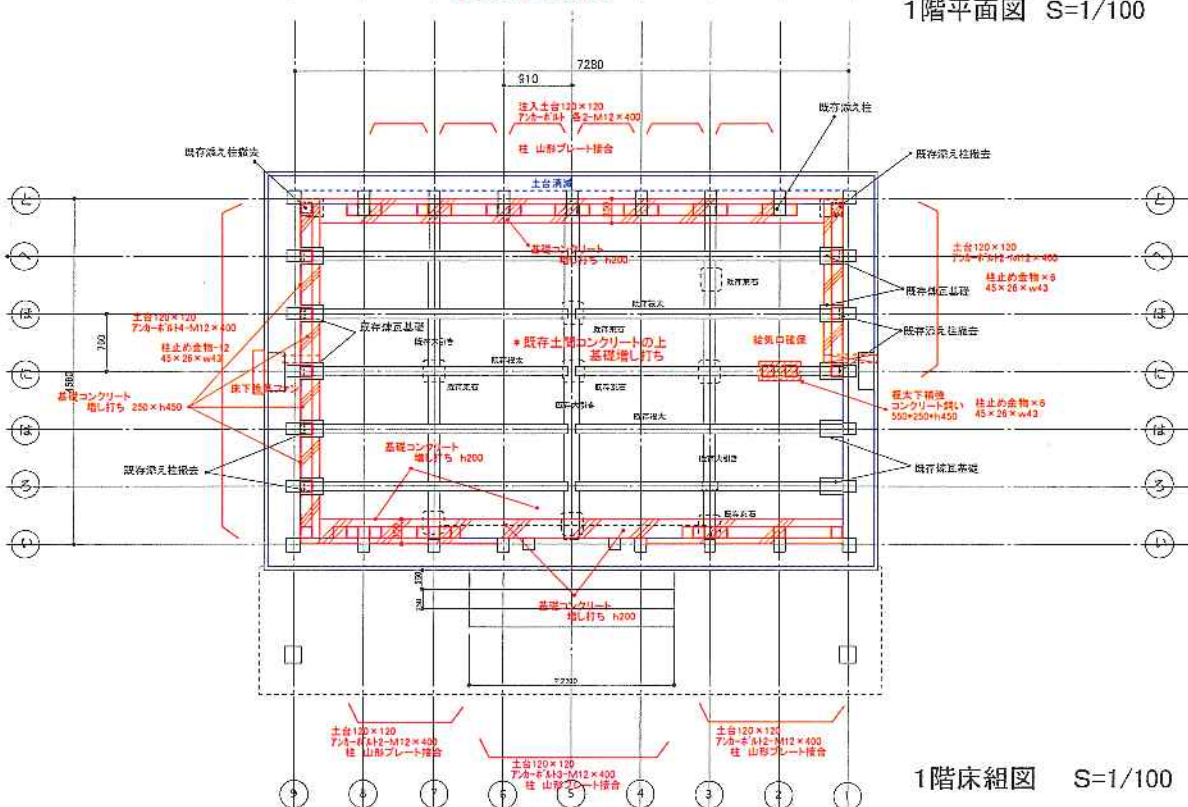




2階床伏図 S=1/100



1階平面図 S=1/100



1階床組図 S=1/100



南西より



西面2階窓



南東より



東面



下屋出入口



南面より



北西より



西面の床下換気扇



出入口



北面の補強添え柱及び補強添え梁



寄贈の木下の杉を使った補強添え梁



西面の補強添え柱及び壁羽目板張り(一部既存再利用)



出入り口沓石



出入り口まわり(既存板戸を吊り引き戸として再利用)



吉岡まちかど博物館(旧吉岡家土蔵)改修記録

発行 平成23年10月30日

発行者 木下まち育て塾
千葉県印西市木下1439番地
会長 伊藤哲之
